

平成 29 年度 都立高入試 配点について

新教育研究協会

都立高入試の予想得点の算出にあたりまして、弊社が予想いたしました配点をお知らせいたします。

国語 ー記述問題の配点についてー

④〔問5〕200字課題作文

●配点…10点

●採点方法

- ・去年に続き、記述問題が200字作文1問だけであるため、採点は複数の先生が行い、互いにチェックする形になると思われます。「○○について××が書かれている。」のような具体的な基準を各校が定め、段階的に点数を設定していると想定されます。

〈内容〉については下記のような配点がされていると思われます。

- ・自分の意見、主張があるか…4点
- ・筆者の主張を踏まえているか…3点
- ・具体的な体験や見聞があるか…3点

これらの項目について不備がある場合は、各配点の範囲で減点されると思われます。ただし、全体として論旨に一貫性のないものは2点減点、本文の抜き出しや要約になっているものは不可(0点)となると思われます。

- ・さらに、下記のような形式面で、減点されると思われます。

〈表記〉・句読点の誤り、誤字、脱字、衍字(=余計な字)などがあるもの…1~2点減点

・最後の一文が途中で終わっているもの…1点減点

・101字以上150字以内のもの…2点減点 ・100字以内または201字以上のもの…不可(0点)

〈言葉の特徴やきまり〉

常体と敬体の不統一／書き言葉としてふさわしくない／語句の意味や用法・文法上の誤りがある 等
…1~2点減点

数学 ー完全記述問題の配点についてー

●配点…各7点

●採点方法

- ・模範例についての予想配点です。各学校によって違いはありますが、部分点があると思われます。

②〔問2〕

〔証明〕

5段目の6個のマスに入っている数をそれぞれ a 、 b を用いた式で表すと、左から、 a 、 $4a+b$ 、 $6a+4b$ 、 $4a+6b$ 、 $a+4b$ 、 b となり、その和は、

$$a+(4a+b)+(6a+4b)+(4a+6b)+(a+4b)+b=16a+16b$$

$$=16(a+b) \text{ となる。}$$

また、1段目の2個のマスに入っている数の和は $a+b$ と表せる。よって、5段目の6個のマスに入っている数の和は、1段目の2個のマスに入っている数の和の16倍となる。

- ・5段目の6個のマスに入っている数が a 、 b を用いてすべて表されていれば2点、その和が a 、 b を用いて表されていれば2点と思われます。
- ・1段目の2個のマスに入っている数の和が a 、 b を用いて表されていれば2点と思われます。
- ・結論ができていれば1点と思われます。
- ・誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になるとされます。

④〔問2〕①

〔証明〕

$\triangle ABP$ と $\triangle QCB$ において、
四角形 $ABCD$ は長方形だから、

$$\angle PAB = 90^\circ$$

半円の弧に対する円周角は直角だから、

$$\angle BQC = 90^\circ$$

よって、

$$\angle PAB = \angle BQC \text{ …………… (1) ——— 3点}$$

長方形の対辺は平行だから、 $AD \parallel BC$

平行線の錯角は等しいから、

$$\angle APB = \angle QBC \text{ …………… (2) ——— 3点}$$

(1)、(2)より、2組の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle ABP \sim \triangle QCB$$

- ・(1)、(2)は順不同でもよいと思われます。
- ・(1)、(2)のうち、1つが書けていれば3点、2つが書けていれば6点になるとされます。
- ・「2組の角がそれぞれ等しい」は、「2角相等」などでもよいと思われます。
- ・その他、別解も考えられます。
- ・誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になるとされます。

英語 ー課題英作文の配点についてー

●配点…12点

●採点方法

- ・各学校によって違いはありますが、文法面とともに内容面を重視して採点すると思われます。
- ・日本語の指示文で指定されたテーマについて書く形式から、途中に空所があるメール文を完成させる形式に変更されました。「自分が考える英語を使うための工夫として考えられること」を、I want to～等で表現したあと、そう考える理由等を示す文章を続ける解答が中心となると思われます。また、時制面では未来の表現が中心になるかと思われます。
- ・学校によっては、つづり字、読点、大文字、小文字などの表記上の誤りがあれば、各文1～3点の減点があると思われます。ただし、同じ誤りを何回も繰り返したような場合は、全体で何点の減点というような配慮がなされると思われます。

社会 ー記述問題の配点についてー

●配点…各5点

●採点方法

- ・③〔問3〕 Iの文章には、A村の取り組みとして「廃業を検討していたガソリンスタンドの事業者に対して存続を要請した」ということと、「自動車や暖房の燃料は、村内にあるガソリンスタンドで積極的に購入するよう住民に呼びかけた」ということが書かれています。また、IIの表からは、2000年から2015年にかけて、A村のガソリンスタンド数が1つになってしまったことと、高齢者の割合が増加した(高齢化が進んだ)ことが読み取れ、IIIの略地図からは、A村が山間部に位置していることと、A村の主な居住地域から周辺地域のガソリンスタンドまでは距離があることが読み取れます。これらのことから、高齢化が進み山間部に位置するA村に1つだけあるガソリンスタンドが廃業してしまうと、ガソリンや灯油などを買うのに周辺地域の遠くのガソリンスタンドまで行かなければならないことになり、そうした遠くのガソリンスタンドまで行くことが困難な高齢者などにとって大変になるということを読み取って、簡潔にまとめていけば正答と思われます。
- ・⑥〔問3〕 IIの表からは、日本の「世界競争力の順位」が、2005年には中華人民共和国や大韓民国よりも高かったにもかかわらず、2011年には両国よりも低くなっていることが読み取れます。また、2005年から2011年にかけて、中華人民共和国と大韓民国の「英語力のアジア内順位」は上昇し、「海外への留学者数」も増加しているにもかかわらず、日本の「英語力のアジア内順位」は変わらず28位で、「海外への留学者数」が減少していることが読み取れます。このことから、中華人民共和国と大韓民国の「世界競争力の順位」の上昇には、両国の「英語力のアジア内順位」の上昇や「海外への留学者数」の増加が関係しており、日本の「世界競争力の順位」の低下には、「英語力のアジア内順位」が変わらないことや「海外への留学者数」の減少が関係していると考えられます。これらのことを、国が「グローバル人材育成戦略」を発表した理由として、簡潔にまとめていけば正答と思われます。

理科 ー記述問題並びに作図問題の配点についてー

●配点…各4点

●採点方法

- ・⑤〔問3〕 <実験3>の<結果3>より、物質E(酸化銅)と、炭素をよく混ぜて加熱したところ、試験管には赤色の物質が残り、その物質を固い物でこすると光沢が出たことから、酸化銅が炭素に酸素をうばわれて還元され、銅になったことが分かります。また、加熱中に発生した気体を石灰水に通すと白く濁ったことから、炭素が酸化されて二酸化炭素が発生したことが分かります。以上の点を踏まえ、物質Eの名称である「酸化銅」と「酸化」「還元」という語句が使われており、「酸化銅が還元されて銅になった」という化学変化と「炭素が酸化されて二酸化炭素になった」という化学変化の両方が述べられていけば正答であると思われます。
- ・⑥〔問2〕 2つの分力両方の矢印が正しくかかれていて正答になると思われます。
- ・⑥〔問3〕 <実験2>の<結果2>における①～⑤の各区間における平均の速さの値が全て各区間の中央の時間に「・」で示された上で、グラフの直線が平均の値周辺にかかれていけば正答となると思われます。